



▲選者の黛さん、「いつの日かこの愛の句碑が集まって句碑の林ができたらすてきだと思います」と感想を話していました。



愛の句碑お披露目

黛まどかさんを囲んで
入選者らが交流

5月11日、村民の森あいの沢で、昨年度全国から公募した愛の句碑の入選句50のお披露目を兼ねた「黛まどか先生を囲む園遊会」が行われ、俳句の作者やその家族など132人があいの沢に集い、句碑の完成を祝いました。園遊会には今回の選者をつとめた黛まどかさんも参加し、村長、横山村議会議長、そしてブラジルから参加した猪野ミツエさんら4人が句碑と鑑賞路の完成を祝ってテーブルカットを行いました。

この日はあいにくの雨でしたが、参加者らは自分の俳句が刻まれている句碑の前で記念撮影をしたりし、鑑賞路を散歩しながら、自分の俳句が句碑になった感動をかみしめていました。

また、記念の吟行会も行われ、荒喜雄さん（飯樋町）と斎藤須美子さん（飯樋町）ら5人が特選句に選ばれました。

吟行会特選句

ブラジルから参加した猪野さん。今回の愛の俳句募集をブラジルのサンパウロ新聞で知ったとのこと。

以前、やはり黛さんが選者を務めた熊野古道を詠った俳句に応募したところ、海外特別賞をもらってから黛さんの大ファンとか。50選に選ばれた感想を「入選の知らせを受けたときは本当にビックリしました。今まで賞状はもらったことはあるけど、句碑というのは初めて。感無量です」と話していました。



高原の牛の長蹄き青き踏む

斎藤 栖峰（保原）

森濡れて五月の蝶のいま生きる

上田 明弥（都路）

浮橋を渡れば頬を若葉風

荒 喜雄（飯館）

双蝶の柵越えるとき離れけり

後藤 敦子（保原）

すれちがふ人に径あけ山すみれ

斎藤須美子（飯館）